

令和6年度 第3回東郷町地域ケア推進会議：議事録

日時	令和6年12月4日（水）14時00分～15時30分
場所	東郷町役場2階 大会議室
出席者	<p>委員 ※敬称略、順不同</p> <p>山本健司 歯科医師（愛豊歯科医師会東郷支部）</p> <p>佐藤裕美 薬剤師（東郷町薬剤師会）</p> <p>福島美佐子 訪問看護師（東郷町訪問看護ステーション連絡協議会）</p> <p>古橋完美 瀬戸保健所 健康支援課</p> <p>森本美香 健康福祉部 健康保険課</p> <p>磯村達巳 東郷町社会福祉協議会</p> <p>中村安裕 東郷町北部地域包括支援センター</p> <p>荒川和枝 東郷町南部地域包括支援センター東郷苑</p> <p>制野司 有識者（学校法人柳城学院）</p> <p>村井良則 有識者（東名古屋医師会医療介護総合研究センターやまびこ）</p> <p>池田寛 有識者（豊明東郷医療介護サポートセンターかけはし）</p> <p>半田清春 東郷町民生委員児童委員協議会</p> <p>野々山次夫 東郷町民生委員児童委員協議会</p> <p>松枝博之 施設サービス関係（愛厚ホーム東郷苑）</p> <p>松山陽二 居宅介護支援事業所（もみの木）</p> <p>神脇和美 住民代表（第1号被保険者）</p>
欠席者	<p>松浦誠司 医師（東名古屋東郷町医師会）</p> <p>柳ゆかり 理学療法士（東郷町リハビリ連絡協議会）</p> <p>朝倉隆行 居宅サービス関係（メドック東郷）</p> <p>神脇和美 住民代表（第1号被保険者）</p> <p>海老原由美 住民代表（第2号被保険者）</p>
傍聴者	なし
事務局	<p>健康福祉部長</p> <p>高齢者支援課長（進行）</p> <p>高齢者支援課職員 4名</p>
議題	<p>1 あいさつ</p> <p>2 報告事項</p> <p>第2回地域ケア推進会議議題 東郷町の地域課題についての検討</p> <p>「地域資源や制度の周知について</p> <p>～どのようにしたら地域資源や制度について効果的に周知ができるかを考える～」の意見集約結果と今後の方向性について</p> <p>3 議題</p> <p>東郷町の地域課題についての検討</p> <p>テーマ「複合的な問題を抱えるケースへの介入支援について</p> <p>～各々の立場から考える介入支援について～</p>

配布資料	次第
	資料 1 東郷町の地域課題についての検討 「地域資源や制度の周知について ～どのようにしたら地域資源や制度について効果的に周知ができるかを考える～」の意見集約（抜粋）
	資料 2-1 東郷町の地域課題 「複合的な問題を抱えるケースへの介入支援について ～各々の立場から考える介入支援について～」
	資料 2-2 令和元年度から令和5年度分 地域課題集計表

1 あいさつ

委員長	<p>お忙しい中、お集まりいただき感謝申し上げます。全国的に高齢者福祉の人材不足が深刻である。各事業所も肌感覚で感じられていると思う。私の所属する大学はこども分野であるが、求人倍率10倍以上となっている。100人学生がいる中で1,000人の募集があるということ。ICT, IOTなど積極的に活用をする事業所等に補助金を出していくという国の動きもある。一方で事務職は大変人気があり、1名募集のところ10数名を超える申込みがあった、DXが進んでいくと人が不要となってくる。ブルーカラーがホワイトカラーに変わっていくのではと思う。高齢者産業はなくなる。力量や専門性を高めていく中で、人的な限界を迎える。限界の中で何ができるかを検討する必要がある。今回の議題は、まさに適した議題である。専門職の知見から御意見がいただければと思う。</p>
-----	---

2 報告事項

委員長	報告事項について事務局から説明をお願いします。
事務局	<p>資料説明。</p> <p>資料 1 第2回地域ケア推進会議議題 東郷町の地域課題についての検討 「地域資源や制度の周知について ～どのようにしたら地域資源や制度について効果的に周知ができるかを考える～」の意見集約結果と今後の方向性について</p>
制野委員長	事務局からの報告で質問はあるか。
委員	<p>孫世代の活用について。私にも小学生の孫がいるが、夏休みの課題などがまだあるかなと思う。ポスター作りなど。景品があるとやる気になるので、そういう仕掛けも面白いのではと思う。</p> <p>もう一つ、認知症キッズサポーター養成講座はどうやってやっているのか、少し具体的に説明をお願いしたい。</p>
事務局	今年度から町内全小学校5年生と町内全中学校1年生を対象に認知症キッズサポーター養成講座を実施することになった。今後高齢者が増える中で、認知症の方も増えることが東郷町でも推計として出ている。認知症になっても住み慣れた

	<p>地域で暮らし続けることができるよう、認知症に偏見がなく、理解のあるものを増やしていきたい。こどものうちから学ぶ機会を設けることができたらと考え、校長会にて依頼をした。長久手市やみよし市等は既に同じような取り組みをしているため、校長会でも快諾であった。2年後には、今年度小学校5年生で受講した児童が、中学校1年生で復習として聞くことができるような仕掛け。</p>
委員	<p>よくわかった。学校だけではなくて、子ども会などとも連携できるとよい。もう少し掘り下げた質問を。認知症キッズサポーター養成講座を実施した後、児童の反応などはどんなか。</p>
事務局	<p>認知症キッズサポーター養成講座の前と後でアンケートを実施している。アンケートでは、「認知症について知っていますか？」という質問では、「認知症について知っている。」「認知症について言葉は知っているが詳しくは知らない。」と回答するものは9割以上で、受講前から認知症について何となく知っている子が多い。しかし講座終了後は、「認知症について知っている。」と答える子が大半を占める。また「認知症になると何もできなくなってしまうのか？」という質問に対して、「はい。何もできなくなります。」と答える子も講座前ではいるが、講座終了後では「いいえ。できることもあります。」と答える子が大半である。講座の感想では、「否定などせず優しく接することで症状の進行が緩やかになることがわかった。」「うれしい、悲しいなどの気持ちは変わらずあり、こころは病気ではないことが分かった。」など、対応方法や認知症の人の捉え方が前向きな意見が多く聞かれ、講座の効果であると感じている。</p>
委員長	<p>少し角度は変わるが、高校生を対象に認知症の講座を実施したことがある。高校生に「認知症は何が悪いの」と聞いても何も意見は出ない。しかしながらなんとなくネガティブなイメージがある。講座終了後は、最初のネガティブなイメージからは一変している。若いころは何でも定着しやすい。こどもの頃から、正しい知識を伝えるということは大変効果的であると思う。</p>
委員	<p>質問ではなく情報提供。前回の会議で「広報誌を見ない」という意見を聞き衝撃を受けたが、先日、東名古屋医師会主催で認知症をテーマとした講演会を行った。300人が参加した。アンケートを聴取し、「この講演会を何で知ったか？」という質問に対して、広報誌を見たと回答した者が6割、回覧板を見たと回答した者が2割という結果であった。しかしながら、イベントなど自分の興味のあるような目に留まるものは、制度の難しいことは工夫しないと目に留まらないだろうと感じた。</p>
委員長	<p>60歳以上のスマホの取得率は93%を超えたとの統計結果を見た。今後はデジタルが主流になるのか、デジタルを主流としていく時代になると思われる。</p> <p>他に質問はあるか。なければ議題に移る。</p>

3 議題

東郷町の地域課題についての検討

テーマ「複合的な問題を抱えるケースへの介入支援について

～各々の立場から考える介入支援について～

委員長	議題について、事務局から説明をお願いする。
事務局	資料説明。 資料2-1 東郷町の地域課題 「複合的な問題を抱えるケースへの介入支援について ～各々の立場から考える介入支援について～」 資料2-2 令和元年度から令和5年度分 地域課題集計表
委員長	では各委員より意見をいただきたい。意見のあるものは挙手をお願いする。
委員	(挙手なし)
委員長	では、目が合ったので委員にお願いします。
委員	令和6年2月にダブルケアの家族のケア会議を行った。こども課、高齢者支援課、福祉課、民生委員、ケアマネジャー、孫、友人を呼んで会議を行った。職種が違うと考え方も違うと思った。全体を達観できる人がいるとよいと思った。自分としては、高齢者の担当である立場から、どうしても高齢者の支援に目が行きがち。全体を達観してまとめてくれる人がいるとよいと思った。 またダブルケアの家族について、個別の介入チームがあるといいなと思った。関係者が1つのチームになって個別チームが作れるとよいと思った。皆で考えることができる。(隣の委員に目を合わせて) そう思いませんか。
委員	個別のチームをつくるものありかなと思った。
委員長	先ほどの委員の意見で、どういう人がいた方がよいと思うか。
委員	福祉課の方が取りまとめてくれるとよいと思う。こども、高齢者など全体をひっくるめて見て、全体を取り仕切ってまとめてくれる人がいるとスムーズであるように思う。
委員	行政は異動がある。一方で、事業所は専門として長く携わっていくことが多いか。個別のチームを作ったときに、どのように情報を共有するか。FAXなのか。電子@連絡帳の患者支援は、各々の専門職の動きが流動的に見えるためわかりやすいと思う。
委員	重層的支援がその立場かと思った。東郷町は重層的支援体制整備はどのように実施していくのか。
事務局	重層的体制整備は主は福祉課。重層的支援体制整備事業の体制を早くやってほしいとは周りから言われている。豊明市など始めているが、やっているところを参考にしてやっていきたいと思っている。令和7年度は、こども、福祉、高齢者が同じ部でやれる方がまとめやすいという意見から検討中。
委員	早く体制を整えるべきではないか。
事務局	重層的支援体制整備事業は世帯でとらえないといけない。専門的な方からも意見をお聞きし、令和8年4月から開始できればと思う。
委員	国が示しているからではなく、町として必要。他市でも障がい者支援でちぐはぐしていたため、電子@連絡帳を使って情報共有を始めたところ。
委員長	なるべく体制を整えるとよい。他の委員、何か意見はないか。

委員	<p>ケースに関わっているわけではないので、個別事案についてではないが、東郷町の重層的支援体制整備事業は令和7年度からだと思っていた。準備が大変なのですね。3市1町では、東郷町はこれから、日進市は今年度から実施、豊明市と長久手市は既に取り組んでいるため、動向を注視したい。</p> <p>連携体制について、電子@連絡帳を活用するとよいと思う。日進市ではいくつかのプロジェクトがある。一方的に流すだけでなく、双方向できるように。東郷町は案内のみの傾向が多い。日進市は、「自由参加型地域ケア会議」というプロジェクトを立ち上げて、自由に発言ができる。電子@連絡帳上で意見交換が活発にできている。日進市の栄養パトロール事業をやまびこが受託しているが、その情報共有も行われている。</p>
委員長	東郷町はできないものか。
事務局	電子@連絡帳の機能としては、日進市と同じであるためできる。しかし東郷町は日進市より電子@連絡帳に対する取り組みが遅れている現状がある。日進市は電子@連絡帳の活用を活発にするため、プロジェクトなどを立ち上げて検討を重ねている。東郷町はこれからどのように進めていくかを検討するところから始めるところである。
委員長	<p>機能としては日進市と同じで、今後活用については進めていくということで承知した。</p> <p>委員は現在の立場として、どのような考えか。</p>
委員	必要などころには必要な支援をしていくことが求められていると感じた。情報リテラシーのこともあり、役場ならではの情報をつかみ、発信をしていくことは大切なのではと感じた。
委員長	ではここで、少し掘り下げて意見を聞いていく。資料2-1の世帯の複合課題：本人または世帯の課題が複合的について、介護力の低い家族（精神疾患、軽度発達障害、生活困窮が背景にあり）のケースが10件と大変多くなっている。関わられたことがある方がいたら、意見をお願いしたい。こういうケースは、包括支援センターさんが多く経験されているのでしょうか。
委員	ケースの紹介をすればよいですか。
委員長	はい。
委員	ケースとしては、母が認知症で息子が精神疾患を患っているケース。母の介護保険サービスの介入をしようとし、息子に相談をしたが「勝手にやってくれ」と言われ困ったケース。
委員	本人は精神疾患で、認知症の母、生活保護の受給者という条件であれば、後見人をつけることができる。後見人を選任してもらえるような働きかけをしてもらえるか。
委員長	後見人の活用が遅れているという課題がある。
委員	必要な人には、積極的に後見人の活用を検討してもらえると。
委員長	<p>後見人の活用が進むとよい。</p> <p>では、次の課題として、連携体制に関する課題として「地域等との連携の不足：</p>

	地域とのつながりの希薄化」が 17 件ありとても多いと思っているためこちらについて検討を進めたい。地域との繋がりが強い民生委員に意見を聞いてみたいと思う。いかがか。
委員	地域とのつながりは希薄ではない。しかし人それぞれ温度差はあると思う。民生委員は、具体的に何かに関わっているということはなく相談に応じているのみのケースが多い。私は地域密着型で動いている。民生委員向けに公的マニュアルを作成した。「どこに繋げばいいのか？」というもの。民生委員全員に配布した。両面 4～5 ページで構成。また地域防災計画のマニュアルも作成した。防災計画を抜粋して作成し、民生委員の安否確認のマニュアルとして令和 7 年 1 月に配布を予定している。また町が作成した在宅医療介護マップは、冊子の最初ページの方は解説が多くどこを見たらよいのか分かりにくいいため、マップの抜粋版を作成途中。民生委員は情報が入りにくいと思っている。ひきこもり、ヤングケアラーなどの情報は入らない。個人情報と言われ情報が入らないことも多いが、民生委員は準公務員であり、守秘義務も課せられている。パイプ役として本来は機能すべき存在。もっと情報を提供してもらわないと、支援につながらない。
委員長	その他の委員、意見はあるか。
委員	保健師さんに意見を聞いてみるとよいのでは。
委員	訪問看護師をやっていた頃、ケアマネジャーから「看護師さん、まずはサービスに入って整理してくれないか？」と言われたことがよくあった。医療の専門家は受け入れが良かった。その他の介護保険サービスの説明をしながら、ヘルパーさんなどが入ったり次につながった。訪問看護師がキーパーソンになると感じた。全体を見渡せるという役割があるように感じた。
委員	そのとおり。そのような依頼は大変多い。
委員	先ほど委員が話された、必要などころに必要な支援をという話で、自ら SOS が出せない人もいるため、足を運んでいくことが大切である。民生委員は住民に身近で情報を持っている人であり、民生委員が地域との繋がりが希薄なのではなく、専門職側が民生委員とつながることが難しいと感じた。ケアマネジャー時代、民生委員と繋がりを持つことができず、反省した。民生委員と専門職との距離が縮まるとよいと思った。
委員長	情報共有、情報管理、情報統制が肝になっている。今後も複合的な課題を抱えたケースが増えてくるため、連携を一層強化することが求められる。 事務局にお返しし、令和 8 年度には重層的支援体制整備事業の体制が構築されるということであったため、何か追加の意見があれば事務局へ。

4 その他

委員長	その他意見がないようであれば、議題は以上とする。進行を事務局へ戻す。
事務局	在宅医療・介護フェアのチラシを配布した。完成したばかりで、公に出すのは今回が初めて。今印刷をかけているため、完成次第、配布する予定。

事務局	次回の地域ケア推進会議は令和7年2月28日(金)町民会館 大会議室で予定している。通知は追って案内を送付する。本日はありがとうございました。
-----	--

以上